

## 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 第34回評議員会（報告書）

本報告書は、2014年11月1日（土）に東京・大手町スカイルームで開催された公益社団法人日本ユネスコ協会連盟（以下、日ユ協連）第34回評議員会について、慣例に従いその内容及びそれに関する私見を述べることを目的とするものである。

なお、本報告書は日ユ協連による正式文書ではなく、記載内容についての一切の責任は筆者に帰するものである。

### 1. 評議員会の内容

今回の評議員会の主な内容は以下の通りである。

- ・会長挨拶
- ・第33回評議員会議事要録の承認
- ・日ユ協連の今年度（6月～10月）の事業報告
- ・高校生カンボジアスタディツアー（2014年8月13日～22日）参加者2名によるツアー概要及び感想報告
- ・書き損じハガキキャンペーン新応援キャラクターの紹介
- ・2014年度組織活動部会からの報告
- ・質疑応答
- ・理事・評議員情報交換会

### 2. 私見

#### ○ ユネスコ協会の持続的発展について

評議員会では、ユネスコ協会会員の高齢化や青年人口割合（註1）が小さいことが問題として挙げられ、組織の持続的発展を目指すにあたり、年齢構成分布の適正化を図る必要があることが示唆された。この課題に対応することの重要性は日ユ協連事務局をはじめ、ユネスコ協会会員において広く共有されており、青年会員を対象とする補助金制度など、制度面が充実されてきているところである。こうした青年事業に関する私見として三点挙げたい。

一つ目は、青年会員の組織離れを防ぐ必要があるという点である。高校生や大学生のときにユネスコ活動に携わったものの、進学や就職による新しい環境への適応の難しさや多忙により組織離れする例は少なくないと考えられる。ユネスコ協会や青年会員においては、そうした困難を抱える青年をサポートしたり、一旦活動を休止しても復帰しやすい環境を整備したりすることが望まれる。

二つ目は、非会員の青年の参加を促す必要があるという点である。日ユ協連における青年人口を増やすにあたっては、より多くの青年を民間ユネスコ活動のムーブメントに巻き込む必要がある。近年は多くのNPOやNGOが、民間ユネスコ活動に類した活動を展開している。それとの差異化、もしくは連携協働を図り、より多くの青年に対し民間ユネスコ活動について広報することが重要であると考えられる。それにあたっては、非会員も対象にした事業を拡充し、

気軽に参加しやすい環境を整備する必要があると考えられる。こうした点においては、例えば2013年にHISと共同実施したカンボジア・スタディツアーは、広報も充実しており、より身近な旅行会社との共催ということで人々が気軽に参加しやすい事業であったといえる。民間ユネスコ活動について知るきっかけをより多く提供することが求められる。

三つ目は、青年ユネスコ活動の現状をふり返ってみる必要があるという点である。自戒を要するが、青年ユネスコ活動が内向き傾向にあり、外部者が参加しづらい環境を自ら構築している可能性はないか、検討してみる必要があるように思われる。日ユ協連における青年人口が少ないため、事業の企画者や参加者が固定化してしまうという不可避的な原因は否定できないが、「オープンな」ユネスコ活動をどのように構築することができるかを検討していく必要があるだろう。

#### ○ 書き損じハガキキャンペーンについて

日ユ協連による世界寺子屋運動は、開発途上国の教育支援に資する有意義な活動である。その原資の一部として期待される書き損じハガキや未使用切手、プリペイドカード等による募金活動は、長らく続く日ユ協連の主要キャンペーンの一つである。しかし一方で、インターネットの普及等により、年賀はがきの発行枚数が2004年以降右肩下がりに減少していることから年賀状文化の衰退が危惧されるなど、今後の同キャンペーンの持続的発展が危ぶまれる(註2、cf., [http://news.tv-asahi.co.jp/news\\_economy/articles/000037776.html](http://news.tv-asahi.co.jp/news_economy/articles/000037776.html))。

今後はインターネットなどを活用した募金活動を並行して行っていくことも必要になると考えられる。クラウドファンディングなどを積極的に活用し、若年層にも親しみやすい募金活動を展開することも求められてくるだろう。

### 3. 感想

本報告書における「私見」は、あくまでも評議員会で取り上げられた主なテーマに関する筆者の私見であり、筆者の属する仙台ユネスコ協会や筆者と立場を同じくする青年評議員の意見を代表するものではない。

私事であるが、筆者は2011年の東日本大震災後に民間ユネスコ活動に携わり、2013年より日ユ協連評議員として活動させていただいている。活動歴も浅く、諸事情により仙台を離れている筆者に大役を任せてくださった関係者の皆さまの懐の深さに感謝申し上げたい。若輩者でありながら大口を叩いてしまった「私見」は見当違いのこともあると思う。御寛恕を請いたい。

(註1) 日ユ協連の青年会員が所属する全国的青年連絡組織においては、青年が15歳以上35歳未満の者であると定義される。

(註2) 同様の発言が評議員会の質疑でもなされた。

文責：公益社団法人仙台ユネスコ協会 鈴木 耕平  
(東北ブロック選出評議員)